



Photo: 相場恒弘 Text: 編集部
Thanks: AUTOGALLERY TOKYO Tel. 042-799-5222 http://www.autogallery.co.jp

1966 CHEVROLET CHEVELLE

アメ車を販売するプロは一体どんなクルマに乗っているのか？
っていうのは、アメ車好きからすれば意外と気になることだっ
たりする。ここに紹介する1966年型シボレー・シェベルは、ま
さにプロが個人所有で愛用しているクルマだ。シェベルを選ん
だ理由、ビンテージアメリカンを選んだ理由とは、果たして何
だったんだろうか…。

シボレー・シェベルはGMマッスルの代表格だが、
その中心は二代目。しかし、初代モデルをセレクト
したのはスクエアなシルエットで物陰の取れたスタ
イリングにある。疾走感に溢れる二代目は対照的
に落ち着いた雰囲気も意図された理由の一つ。



搭載されたエンジンはエーデルブロック製
350。キャブレターはDEMON製レーシングキ
ャブにハイカムなど、さらなるチューンナッ
プが施されている。さらにエキゾーストには
フローマスターをインストールして、V8らし
い威圧感あるサウンドを響かせる。



テストはそのままにハリットと仕上
げられたインテリア。エクステリア
同様ブラックでまとめられシックな
佇まい。オーディオにはレトロサウ
ンド、ハイオニア、ロックフォード、
Cervin-vegaオーディオシステ
ムなどを組み合わせて充実を図る。

ロードのフォルムはハイスピードエアサス
によるもの。ホイールはアメリカンレーシ
ング・トルクスラストII。ブレーキは4輪ディ
スク化され、安定した制動力を発揮。



魅力的なアメ車をこよも
いち早く取り入れる後輩に定
評があり、ここ最近では理型マ
ッスルカーの取り扱いにも力を
入れている「オートキャブリー
東京」。そのため、「ビンテージ
アメリカン」には積極的にではな
いようにも感じるが、決してそん
なことはない。同社のストック
リストにはビンテージモデルも
多数ラインナップされている。
さらにこのイベント
を当てる86年型シボレ
ー・シェベルは同社
スタッフが個人的
に所有している
クルマ。
アメ車
を販売
する

すべてにおいてスタイルッシュで快適性を追求

プロが所有するクルマだけに色々と
気になることがたくさんある
が、一つずつ紐解いていこう。ま
ずはシェベルを選んだ理由。それ
はスタイリングの良さ。シェベル
は2代目「ワイルドキャット」で
あれだが、初代のスクエアなシ
ルエットに惹かれたという。さら
にインテリア・アメリカンをセレ
クトしたのは、基から応用でき
る。その上、自分自身の思いど
おりに仕上げられることにある。
知つてのとおり、ビンテージア
メリカンは何十年を経過しても
ハリツを供給し続けている。今
でも新作ハリツが生まれ出たり
もしている。それゆえ、仕上げよ
うと思えば幾多の方法が選択でき
ることも大きな要因。
というわけで、このシェベルは
徹底的なレストアップがなされてい
るが、これらは基本的にはアメリカ
でこの状態にまで仕上げられてい
る。その理由は施工金額が安く抑
えられるからだ。同じことを日本
で行なえば倍増かかってしまっ
た。さらに期間も短く抑えられるこ
もアメリカで仕上げるこのメリ
ットの一つ。もちろん日本へ導
入した後は自分で現場にて最終調
整が行なわれ、実用性は完
壁に、普段使いの状
態が保たれている。
まさにこれこそ最
上級のビンテ
ージアメリカン
スタイルだ。

販売のプロが見初めたビンテージは スクエアなシルエットで魅せるシェベル